

平成29年度 第2回大樹町総合教育会議 議事録

1 日時 平成29年12月1日(金) 午後3時00分から午後4時10分

2 場所 大樹町役場庁舎 4階委員会室

3 出席者

(構成員) 大樹町長 酒森 正人
教育委員会
教育長 板谷 裕康
教育長職務代理者 山下 博
委員 丹後 恵
委員 鈴木 珠世
委員 神山 良仁

(事務局)

布目副町長、松木総務課長、角倉学校教育課長、井上社会教育課長、和田学校教育課主幹、田尾社会教育主事、藤原総務課主幹、佐藤総務課総務係主査

(傍聴者) なし

4 欠席者 なし

5 会議内容

午後3時00分 開会

事務局

ただいまから、平成29年度第2回大樹町総合教育会議を開催いたします。開催に先立ちまして、町長からご挨拶を申し上げます。

町長

本日から12月ということで、今年も残すところ1か月余りとなりました。今年度、第2回目の大樹町総合教育会議ということでお集まりいただきました。平成27年度からこの制度がスタートいたしまして、行政と教育がこの会議を通じて大樹町の教育を充実していくためにどういう話し合い、活動ができるかということで、この教育会議が開催、実施をされております。私どもの立場としては、非常にありがたい場ができたというふうに思っております。教育に携わる教育委員のみなさまとこうして定期的に町の

教育、そして行政に関わる考え方や取り組みをご協議できるという非常にありがたい場だと思っているところです。

今回、協議事項として主に2点を挙げさせていただいております。その後、お時間があれば意見交換の場も設けたいと思っております。年末を控えて大変お忙しい中ではあります。限られた時間ではありますけれども、この教育会議を通じて大樹町の教育が少しでもいい方向にいくように、ぜひみなさまとともに私もがんばっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局

これより後は、町長により議事を進行させていただきたいと思っております。

町長

では、続いて議事録署名委員の指名です。議事録の署名については、丹後委員と鈴木委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは協議事項に入っていきたいと思っております。協議事項の1点目、新指導要領への移行期における重点確認についてということで、内容の説明をお願いいたします。

教育長

町長の挨拶にもありましたが、師走に入りました。このスケジュール表を見てください。移行期間まで残すところたったの4か月となりました。学校現場はいま、冬休みをいかに有効活用して趣旨徹底を図っていくかという大事な時期でございます。新学習指導要領のポイントを、改めて大事な部分だけ再確認させていただきます。

改訂のキーワードは、上から3行目「社会に開かれた教育課程」です。その左に「社会と共有し」とあります。何を共有するかがすごく大事です。子どもたちに求められる資質、能力を学校、保護者だけでなく、社会と共有しましょうということがすごく大事なということなんです。

教育内容の主な改善事項が出ておりますが、特にいま注目されているのは2点です。上から4つ目「道徳教育の充実」であります。これは移行期間なしです。来春からスタートするということです。どこが変わっているかというと、教科化になりますので、戦後初めて教科書が使われます。子どもたちの道徳性についての評価が、あゆみの中にきちんと盛り込まれます。多面的な見方を育てましょう、お話だけでなく、考え、議論する道徳をしていきたいと思います。

一番下の段です。外国語教育、英語教育の早期化、教科化です。いま現在5年生から外国語活動が実施されておりますが、3年生からになります。5年生からの外国語活動が教科になります。ということで、英語に慣れ親しむ、聞く、話すだけでなく、5年生か

らは書く、読むの分野も入ってきます。わが町はALTを2名も採用してくださっているので、この部分はより厚く手当てできるかなと思っております。12月5日開催の定例町議会においてもこの部分質問されておりますが、大丈夫だと思っております。

いま学校現場は非常に忙しいと、過労死ラインを超えている教職員、特に教頭が多いというお話ですが、時数が増えます。見てください。赤字で記されています。完全実施されますと、いまより35時間増えます。それが何かというと外国語です。3年生以上が35時間ずつ増えて、4年生の総時数を見てください。1015です。

中学校の授業時数は変わりません。中3でも1015です。ということは、4年生以上はすべて1015。いま、増えた部分をどうするかということで、新聞で騒がれています。土曜授業をしたり、夏休みを削ったりとかいろいろ言われていますが、週29コマを中学校で実施しています。それで問題ないのですから大丈夫です。やっていけます。ただ、中身をいかにいいものにしていくかが、とても大事です。

いま言われているのが、社会に開かれた教育課程で、よりよい学校教育を通してよりよい社会をつくっていきましょうと。今年第1回目の総合教育会議でいろいろ提案させていただいて、町長からそんなに焦ることはない、大樹はいろいろいいことをやっている、じっくり目的を見失わないでやっていきましょうという、ありがたい意見をいただいています。ただ、昨日、十勝管内19市町村の教育委員が集まった会議の中で、現状が報告されました。それを受けて、専門家であります社会教育主事の田尾さんから説明させていただきます。よろしく願いいたします。

田尾社会教育主事

社会教育主事の田尾です。よろしく願いします。資料を用意しました。そちらをご覧ください。教育長から話がありましたとおり、学校課題、引いては地域課題解決対策は、喫緊の取組みが必要です。いま話題に上がっているコミュニティ・スクールをつくることは目的ではありません。コミュニティ・スクールは、あくまで課題解決のための手段、方法にすぎません。コミュニティ・スクールを通してどんなまちにしたいのか、地域でどのような子どもを育てていくのか。熟議を通して考えた地域住民の思いを狙い又は目指す姿として示していくことが大切であり、それを実行し、解決するのが目的です。

大樹町には平成19年10月1日に宣言した大樹町教育の日「みんなで考え、みんなで育む“未来の大樹”」というスローガンの取組みが今日まで続いています。この取組みの狙いや理念を子どもたち、学校、家庭、地域住民に、コミュニティ・スクールの関連事業を通して周知することが、いま、大樹町の学校や地域の課題解決につながると私は確信しています。いまある取組みや組織を活用し、さらに組織間をつなげることで、連携、協働することにより、大樹スタイルを発展させることができます。

昨日の研修会で、十勝教育局から示されたものです。十勝管内のコミュニティ・スクールの導入状況です。現在、4町村が導入しています。他町村につきましては、主に平成30年度から31年度導入予定と連絡が入っております。

コミュニティ・スクールの体制のイメージ図です。現在、右に記載されている地域学校協働活動。大樹町では現在、学校支援活動と呼んでいます。昨年度から元・地域おこし協力隊の中村祐樹氏を地域コーディネーターに委嘱し、これまで適時報告しているとおり、多くの講師や教育サポーターを学校に派遣し、地域の方の活躍の場を広げ、体制が整備されているところです。左に記載されている図は、現在文部科学省並びに北海道教育委員会が平成33年度までに全国の小中学校すべてにコミュニティ・スクール、学校運営協議会の設置を目指しているところです。大樹町においては、これからこの組織の整備が必要となっております。

今後のコミュニティ・スクールの組織整備に係るスケジュールとなっております。いまだ学校支援活動はもとより、コミュニティ・スクールが地域住民に周知、理解されていない事実があることから、今後は広報活動や研修、熟議、熟慮して議論しあう場を設定することが必要となります。

最後は、本日北海道新聞に掲載された、昨日行われました大樹中学校における学校支援によって実現した事業の一例です。以上で私からの説明になります。

町長

協議事項の1番目、新指導要領への移行期における重点確認についてということで、前段、指導要領が改定されるに伴ってのスケジュール又は基本的な考え方や改善の事項等について、教育長から説明がありました。道徳教育が充実される、教科になっていくということ、また、外国語教育がさらに充実されていくということ、そして、それに伴って特に小学校ですが、改訂後の時数が増えていくということの説明がありました。

後段は、社教主事の田尾先生の方から、大樹町がこれから進めていくコミュニティ・スクールの考え方又はスケジュールなどについての報告と説明がありました。資料として、昨日大樹中学校で行われました、地域おこし協力隊員による大樹町の魅力を探る事業の記事も、参考資料として載せていただいております。

指導要領の移行期における重点確認についてということで、この内容については教育委員会の方でも議論されているのかなと思っておりますが、この関係について何かご意見があれば、お考えも含めてお出しただければと思います。4年生はこれだけ時数が増えても、みんな持ちこたえられるのかな。

神山委員

コミュニティ・スクールの確立は、昨日の会議の中でみなさん考えてこられましたし、私のグループの中では上土幌と浦幌がおられまして、お話を聞いたんですけども、いままでバラバラにやっていたものをまとめるということがあって、まとまった時点でリーダーを決める。

大樹の場合は、いろんな基礎がありまして、大樹の中の奥さん方のグループで小学校の図書館にボランティアとして協力している。そういうのがたくさんあるようですので、まとめるのは容易なことなのかなと。ただ、ひとり頭をつくるのが。町の中にやってくれる候補がいるのかが問題点。上土幌の場合は外から入れたという話をしていました。そうですね。

田尾

はい、地域おこし協力隊でまかなっていると聞いております。

神山委員

そう急ぐ必要はないのかもしれないけれど、いまからじっくり進めていかないと。間に合わせなければいけないと思います。

町長

外からの人材というのは、地域コーディネーターのこと。

田尾

はい、そのとおりです。

町長

上土幌は地域コーディネーターを地域おこし協力隊員が担って、コミュニティ・スクールの活動を行っているということ。

田尾

はい、そうです。

町長

大樹町も地域コーディネーターを置いて活動していますし、その活動の報告の月報も毎月上げていただいて確認しているし、学校支援で鈴木委員もされておられますけれども、図書館だったり、家庭科に応援に行ってもらったり、いろいろな部分で開かれた学校づくりは進んでいると思います。

自分はこの立場になって3年続けて中学校でお話させてもらってますが、ここにあるとおり、たとえば地域おこし協力隊の5人が学校に出向いて、自分たちの経験談を含めて話をするなんていうこともやっていただいていますし、そういう部分では、いま神山

委員が仰ったように、いろんな芽はできてきているんじゃないかなと思いますし、それをコミュニティ・スクール、学校運営協議会という組織に収めていく作業が必要なのかなと思っています。

先程、教育長からもお話があったとおり、第1回目の7月5日のこの総合教育会議で、コミュニティ・スクールについての考え方が示されて、そのときには、僕は正直この形が本当にいいのかどうか、形を先に作るより中身を作らないと器だけになって中身が伴わないよという発言をさせてもらったんですが、いま神山委員、田尾先生が仰るように、いろんな芽ができてつつある、できている、それをつないでいくという役割がコミュニティ・スクールの学校運営協議会になっていくということであれば、それは可能性としてはあるんじゃないかと思って聞いておりました。この関係で何か教育長の方で補足することがあれば。

教育長

どうしても形だけに走ってしまうと長続きしませんよ、中身が大事です。子どものために学校現場だけでなく、保護者、地域の方々からいいアイデアをいただきながら、わが町の次代を担う子どもたちをどう育てていくかということで共有化を図ればいいのか。

まとめ役は神山委員が仰るようにすごく大事です。上土幌の場合は地域おこし協力隊の方にやっていたているんですけども、やはり最初は苦労するそうです。どうしてかということ、地域を知らない人だから。ただ、専門職としてひとり置くことで、だんだん機能していくと。中札内は、学校のことをよく知っている教員を村費で雇ってやるそうです。それぞれの町、村の事情でよりよい方法を探していくのがいいのかなと思っています。

町長

新指導要領への移行期における重点確認ということ、それとコミュニティ・スクールの開かれた学校づくりに対する大樹町の取組みの方向性みたいな議論になっておりますが、この議題に関する何かご意見があればお出しいただければと思います。鈴木委員、実際に学校支援で入っていただいていることも含めて、お話しいただければ。

鈴木委員

まず感想ですけど、参加しているのは保護者がほとんどですが、おひとり60歳過ぎの方がおられて、その方のお話を聞きますと、本当はもっと参加したい、でも周りの年齢層を考えると出にくい部分もあるということなので、そういう話を昨日の会議の中でお話ししたら、清水町さんが教育委員会で人材登録をされていると。高齢者の方たちも自分はこのことができる、たとえば庭いじりとかミシンとか何かものづくりができるとか、特別なことではなくて、ちょっとしたお手伝いができるそういう登録を

町にしておいて、学校が何か支援がほしいというときに何人をお願いしますというシステムができあがっていると聞きました。ひとりだけがトップになって、みなさんをお願いするというよりは、町の中できちんとした体制づくりが整ったうえで、参加できるようなシステムがあるほうが参加しやすいのかなと思いました。

男性はひとりもおりません。もちろん、お仕事をされているということもあるんですけども、地域には退職された方たちもたくさんいて、まだまだ現役で元気な方たちがいらっしやるので、そういう方たちが学校に入ってくれるシステムがあるといいかなと思っています。

もうひとつ、外国語の授業もたまたまボランティアの時間に小学校で授業を見たんですけども、予想したよりも子どもたちが英語を、単語でも何でも緊張しないで話していたというのが印象的でして、参観日で見える姿よりも非常に好意的に私は受け止めていたので、授業化になってもきちんと、多分、大樹の子どもたちはあまり無理なくできるのではと私は思っています。

町長

いまの学校支援に入っていくお立場というのは、ボランティアですよ。ご発言の中にあつた登録制度というのは、うちにはないですよ。

神山委員

何年か前にはあつたんですよ。基礎はあるらしいですよ。古いものですから、もういちど掘り起こさないといけない。

町長

なぜ聞いたかという、ひとによって積極的に関わっていきたいと思っている方はボランティアだろうが人材登録だろうが、自分の意志で動いてくれると思うんですけども、男性が少ないという話は、なかなかボランティアで学校に関わってあげたいと思ってもやれないという部分では、掘り起こしは必要だけでも、人材登録がされていれば、その方にこちらからお願いしますといけるので、お互いに動きやすい。ボランティアだと頼みたいんだけど、誰に、どこに頼めばいいのかわからないしとなるので、人材を活用していくという部分では、ひとつの方策になっていくのではという思いはあります。

ただ、何かで見たんですが、生徒でも児童でもない教職員でもないひとが学校に入っていくということになるので、安全管理の部分で学校が心配をしているというようなコメントがありました。当然、ボランティアで入るみなさんも気にはしてくれていると思うんですが、出入りの部分で一言声をかけていくとか、何か段階を踏んであげないと学校が不安を抱えてしまう要素になるかなということで、ちょっと聞いてみました。

どうでしょう、学校支援、コミュニティ・スクールの部分も含めての議論になっておりますが。どんなことでも結構です。

山下委員

学校支援ということで昨日会議に出席しましてお話を聞いたんですけども、ある町村では役場の職員が、例えばサッカーが得意で教えられるとか、野球が得意だから教えられるとか、積極的に3時から5時の早退を認めて派遣しているということを知りまして、それもひとつの支援の仕方なのかなと。広くコミュニティということで考えたときに、大樹町は小中高連携で素晴らしい形ができあがっているのと、地域の方々に開けた教育の場ということで学校に出入り自由ですよと、自由に授業を見てもらってかまわないですよということで、すでにコミュニティ・スクールの基盤はできているのかなと感じているところもあります。

他の町村の方にも、大樹はある程度いいところまでできているよと。あとは受け入れというか協議会、外部から、あるいは内部からの問い合わせについて窓口を一本化する組織をつくれればいいだけの話。そんなに敷居は高くないのかなと。

ある町村の人によれば、とりあえず手を挙げて、中身については落ち着いてゆっくり進めていけばいいという認識を持たれている方もいました。そんなに身構えなくてもいいのかなと感じました。これからいろいろ進めていく上で出てくる問題を考えると、渡りに船ではないですけど、こういったコミュニティ・スクールという考え方は、ある意味大樹にとってはいい時期にいい提案があってよかった、逆に利用できるんじゃないかと感じました。

町長

ありがとうございます。昨日の会議というのは教育委員さんの、十勝の研修。

教育長

2つテーマがありまして、ひとつはコミュニティ・スクール導入に向けてということ。もうひとつは、学校の過重負担を家庭、地域でどうやって役割分担できるかということで、2時間ほどみなさん熱心に討論されていました。

町長

いま山下委員がご発言になったとおり、確かにうちに限らず、例えば農協でも、高校時代、大学も含めて、ガチで部活をやってきた方がいらっしゃいますので、そういう方を少年団なり、子どものスポーツの指導に充てるというのは方法としては間違いなくあるかなと思います。

ただ、そこにはやはり、ボランティアだといつ誰が来てくれるのかもわからないし、今日は誰もいなかったけど明日になれば10人もいたなどということになりかねない

ので、そこは登録しておけばローテーションを含めて、出る方も、組織も出しやすいし、そういう形づくりはまさに私どもと教育委員会の役割かなと思いますし、そのことが結局巡り巡っていけば先生方の過重労働を少しでも軽減できるような方策に時間を作ってあげられる、本来の教師、先生方の役割である授業を考えたりとか、そういう時間を作ってあげられるかなということもありますので、それはぜひ検討していくべき項目だと思います。

丹後委員

第1回目の総合教育会議のときに、コミュニティ・スクールのことが話題になって、大変戸惑って、わからなくて、困ったんですね。それから何か月か経ちまして昨日、いま話題に出ていましたように会議の中でいろんな町村の実際やっている町村の人たちと本音で、みなさんこんなこと言っていいのかなと思うくらい本音で話していました。

大変勉強になって、大樹町は検討中ということで、豊頃町と同じ、検討中というのは熟慮に熟慮を重ねていいですね、と何町村かのみなさんに言われました。おそらく大樹町は、いろんなところでいろんな組織ができていますので、そんなに簡単にこれに乗らなくてもいいのではないかと。だから、きっと熟慮しているのでは、と言われました。

そして、その中で、みんなで年代的に一番中心になるコーディネーターの重要性をこの町村の方々も仰っていました。コーディネーターになるのは地域おこし協力隊の方とか、芽室もそうですね、コーディネーターをどなたにするのかが一番のネック、一番重要なポイントではないだろうかという話で。

最後に、年代的にだと思っんですけれど、私がまさにその年代なのですが、退職後、おじいちゃん、おばあちゃんの世代なんですね。60代。この年代の人たちをしっかりと取り入れるのがひとつのポイントになるのではということが最後に出ていました。お金と暇と人生経験がいっぱいある、その年代をまず取り入れること、それにはどうしたらいいかと。そういう話題がでていまして、私もまさに自分自身のことを考えて、社会に貢献したいという気持ちもありますし、時間もありますし、余裕の世代というんでしょうか、孫を通したりして、本当の意味で次の時代を担う子どもたちの教育の大切さをわかっている年代。

ですから、この60代、退職した年代の、先程も出ていましたが、男の人はなかなか難しいと思うんですけど、難しいとばかり思わないで声掛けとか、ちょっとした声掛けで入ってもらえたりとか、コーディネーターの役割もしてくれるのではないだろうか。私自身の考えもまとまりまして、それは一番いい考えだと思います。

町長

丹後委員のご発言にもありましたが、あらゆる分野で、教育に限らず人手不足、人材が足りないということで、退職されたシルバー世代を活用しているんな部分で前面に出てもらうというのは、教育の部分だけでなく、まちづくりにおいても非常に大切なコンセプトというふうに思います。そういう意味で、先程から出ている、ボランティアを待つという姿勢ではなく、こちらからそういう方を掘り起こしていくという登録制度はぜひやっていかなければならないかなと思います。

男性はなかなか出てきてはくれませんが、男性の役割は学校の現場でもあるはずですよ。間違いなく。そういうところをいかに場を作ってあげるかということも、まさに地域コーディネーターの役割ですし、そういう方と学校を結びつけていくためのコーディネーターかなと思っていますので、今後もコーディネーターの活動、活躍には期待したいと思っています。

教育長から話題提供のペーパーが机の上にあるんですが、どのタイミングで話題提供してもらったらいいでしょうか。CSの話も書いてあるので、ここでお願いします。

教育長

はい。気を遣っていただいてありがとうございます。ちょうど来年が北海道150年ということで、北海道のフロンティア精神はクラーク博士からかなと。教育は何のためにという、教育基本法に人格形成を目指すというあり、やはり最後はそこだと。知徳体のバランスはすごく大事。いかにやる気を育てるかが大事であるということ。

それと、先程町長のお話にもありました大樹学で、町長自ら中学生にわが町の、というところをやってくれています。いかにして愛着を持たせるか、いろいろ手を付けてくれています。小中高ふるさとキャリア教育に道教委がかなり力を入れています。それだけに注文も多くて学校現場は嫌がっているんですが、ちょうど3年で終わると。いやいややった割にはかなり成果が見えている。それをいかにいいとこ取りしていくか。今後知恵を出して続けていきたいと思っています。そうした部分についても今度の定例議会で質問されていますので、そういう方向で答えていきたいと思っています。

あと、わが町の弱いところは幼児教育かなと。目指す姿の部分で幼児教育で10項目出ています。これを発展していくといいのかなということで話題提供でした。

丹後委員

私も幼児教育の重要性に関心がありまして、今回のコミュニティ・スクールの資料を見ても具体的な幼児教育の取組みが盛り込まれていないんじゃないかなと思います。たとえば英語の授業を受けるとか、自然に触れるとか、幼児教育の部分だけが具体的に示されていないようで、とても残念に思いました。具体的なものを盛り込んで

らえましたら、大樹の根、根っこの部分の幼児教育がすごく大事だと思うので、その辺の具体的な方策を示していただきたいし、示すべきだと思うのですが、いかがでしょうか。

教育長

教育の原点は家庭にあって、いまいろいろなトラブルが起きているのは、子育てになかなか余裕のない家庭があるというところにあると思っています。やはり望ましい生活習慣をどうやってつくっていくか、幼児期にいろんなものと触れさせる、体を使って、たくましい体力がベースにあるんだろうと思います。それには望ましい食習慣というところ。そういう部分を啓発していかなければいけないと思います。そういう部分をわかっているのが先程お話にあったシルバー世代だと思います。そうやって子育て世代の弱い部分を補完していけるような社会づくりが大事なかなと思います。

町長

教育長の話提供の中にもあったんですけども、いま小中高のキャリア教育を通じた大樹学も含めてですけども、連携が非常にうまくいっていると思っていますし、実感もしています。10月31日に北海道でキャリア教育の、十勝は大樹なので、14市町が札幌に集まって取組みの内容についての報告会がありました。

大樹高校から4人の男の子が参加していて、報告会に臨んでくれたんだけど、研究報告会自体を大樹高校の4人が引っ張っていってくれました。管内でそれぞれ8分くらいだったか、4つくらい1回に報告をして、それに対する質疑応答とかをやるんだけど、それを引っ張っていたのが大樹高校の生徒たちでした。非常にやってきた成果があったかなと頼もしく思いました。

教育長からも、丹後委員からもありましたけれども、幼児教育を含め、幼児に対する教育をまちの教育としてしっかり位置づけて、応援して担っていったらあげられるかというところ、ちょっとまだ、そこは足りない部分はあるかなと思っていますので、認定こども園はありますが、公的な部分ではないところで、担っていただいている法人にも、しっかり町として教育委員会としても、つながりをもって、同じ方向を向いてやっていくということが必要なかなというふうに改めて思います。

1点目の新指導要領への移行期における重点確認について、ということで、主に学校支援、コミュニティ・スクールの活動のあり方等についてのご意見をうかがっておりましたが、この後まだ協議事項ありますので、そちらの方に移って、最後にまた質疑応答の時間をとればと思いますので、よろしく願いいたします。

では、2点目の平成30年度教育予算について、まだ予算はこれからですけども、考え方だけでも説明をお願いします。

角倉学校教育課長

私の方から(2)の平成30年度教育予算ということで、資料はつけておりませんが、前回の教育委員会の際に町長と主な教育予算の事業について教育委員さんに説明しております。現在、予算作成中ということで、12月に入って本格的な予算査定が固まるという状況になってきますけれども、町長と協議した主な事業等、委員さんにおかれましては、ある程度把握していると思いますが、30年度予算について全体の中で何かありましたら発言していただければと。協議でお知らせした内容は、それぞれ新規の事業も含まれておりましたし、大幅な修繕もございましたが、その中で特に気に留まることがあればということで、表題だけですけれども提案させていただいております。

町長

ただいま、平成30年度の教育予算ということで、委員会の方から説明があったところですが、先般行われた教育委員会の方でおおまかな新規事業等についての、これから要望していくことについて内容の説明があったということですが、新年度のまちの予算に関して、何かこの場でご意見があれば、お出しいただければと思います。

予算の関係は、よろしいでしょうか。何かあればお出しいただくということで、それではその他、全般に関わる部分で何かご意見、ご要望がありましたらお出しいただければと思います。

なければ、私の方から1点申し上げてよろしいでしょうか。児童の健康管理の進め方についてなんですが、教育長からも教育委員のみなさんにお話があったのかなと思いますが、委員のみなさんもお存知のとおり、たいキッズ健診で子どもミニドックの健診をやっているんですが、受けてくれる子どもたちは、親御さんも含めて受けてもらったりするんですが、やはり、それなりの検査の結果が出ていて、早期に発見され、そういうことを確認した上でいろんな治療を行っていくという効果はあります、間違いなく。

ただ、受診率が向上していかないということで、全体の健康管理を進めるという部分では、やはりまだまだ足りないというところがあるんですね。これから学校現場ともいろいろ相談して、明日また学校と、校長先生と保健福祉の担当課長、教育長とかも入ってもらって、今日でしたか、そのお話しはこの場でできるようなことがあるでしょうか。

教育長

大樹の場合、肥満児が多いんですね。家庭がそういう環境なんです。肥満児のお父さん、お母さんも肥満の方が多くということで、学校医を務めてくださっている岩淵院長がすごく大事にしてくれています。子どもに指導すると素直に聞いてくれる、一生懸命。親にいてもなかなか直らないけど、子どもの意識改革の方が効果がある。長い目で健康、福祉、行政を考えると、小さいうちから自分で健康に気をつけていく子育てをした方が絶対有効ではないかということなんです。

それで、受診率があまりよくないものですから、保健福祉課の方では学校の場所を貸していただいてやりたいと。具体的に上がっているのは、4年生あたりどうですかということ。費用は町費で見ます。結構高い。ひとり5,000円いくらするが、ちゃんとまかなえますよということ。具体的に学校と詰めていって、学校はいま過密スケジュールなので、貴重な授業時間をとられるのはしんどいということと、注射を怖がっている子どももいるし、たいキッズ健診だと保護者同伴なんです。医療行為なものですから、血を抜くという。そういうこともあって、保護者同伴だから面倒だから行かないって保護者もたくさんいるだろうと。保護者の同意をもらうだけで学校でやってくれるということであれば、受診率も当然上がるし、健康教育にプラスじゃないかということで、大筋学校にも了解してもらって、今月の11日に学校父兄会があるんですが、そこでさらに具体的に煮詰めていきたいという流れになっています。

町長

たいキッズ健診の実績がいま手元にあるんですけども、たとえば平成28年、小中高で対象となる児童生徒が440人いて、その内受けたのが71人。16.1%の受診率。71人のうち、要検査の率が13%ある。

実は面白いのがあって、香川県は4年前から県内全小学校の4年生を対象に血液検査を行っている。全員対象にしている。その内の12.6%が肝機能異常、11.1%が脂質代謝異常、10.6%が血糖値異常。みんな10%以上。

ということは、大樹町のさっきの率から考えても、16.1%の受診率の子どもでも13%の再検があるということは、全体受けてもほぼ、香川と一緒にとは言わないまでも可能性は高いということも含め、たいキッズ健診は先進的な取組みだと思っはいるんですが、広がっていかないということは、さっき教育長が仰ったように保護者のご都合とか、子どもの健康を気にしないという親御さんはいないと思うんですが、仕事の都合とか、行けたり行けなかったりとかもあるので、健診の項目として血液検査を入れられないかというのを学校の了解を得られそうなので、次は11日の委員会でさらに煮詰めていって、協力が得られるのであれば、早ければ来年から予算化できないかなということと検討を進めているところです。この内容で何かご意見、ご要望があれば。

神山委員

先程の幼児教育と同じで、こここのところが劣っているから幼児教育も進まないのでは。町長がいま言われましたけれど、子どもの健康に親は無関心でないはずだと思うんですけども、親の口からは言わないんです子どもに対して。バスに乗っているとき、子どもが騒いでも叱らない親が多いじゃないですか。私も孫がいますので、親になぜ怒らないのかということなんですが、いまは怒る教育じゃないという。怒る教育じゃないというのと幼児教育はバランスがとれているのかといま思うんですけど、叱らずに諭す教育とい

うれしいんですが、それで子どもがついてくるのとよく言うんですが、うちは怒らない親と怒るじじいと、ちょうどいいバランスがとれている。それでも、みなさんに孫がご迷惑をかけているようなので。

鈴木委員

いまの健康の話は、まさに我が子も肥満の対象ではあると思うんですが、私も非常に気になっておまして、よく思っているのは、通学するのはバス、解消するためにそば教室に通わせる、少しでも歩かせる、それ以外のときどうするかということになると、今度考えるのは少年団に入れるかどうか、そうすると送れるかどうか、送迎ができるかどうかはずっとハードルになってくる。そうすると親は仕事をしている人だとなかなか難しいということがあるので、いくつも子どもの健康のために考えないといけないハードルがすごくたくさん実はある。

それを解決するためには、本当の希望としては、個人的な意見として聞いていただきたいんですが、学校の放課後に学校の中で動く、運動できる時間が1時間でも2時間でもあれば、本当はすごくありがたいんです。去年あたりに教育委員の研修で札幌に行かせていただいたときに、保護者がボランティアで何時間か子どもの放課後を見守るとい学校があったんです。そこは運動しているわけではない、本を読んだりとか、ひとつ教室を借りて見守って、その後に親が帰って来る時間帯に帰らせるということをしていた学校があったんですけれども、それだけだと運動はできないので、先生が見守るのは大変ですから、先程のコミュニティ・スクールの導入とからめても、ボランティアのひとが見守ってくれるようなシステムができれば、非常にありがたいと思ったのがひとつですね。

学童保育所ができますので、せっかく新しい施設ですから、そこを有効活用するためにも保護者の意見を吸い上げていただいて、こんなことならぜひ協力したいという意見を募って体のためにできることはたくさんあるかなと思っています。

町長

シルバー世代の活躍の場ということも、学童保育で体を動かすというのももちろんそうだし、将棋や絵を教えてくれても、なんでもいいんです。コマを回すのでも。そういう部分で関わりを持ってくれないかなという思いもあるので。体育館とはいえないけど、そこまで大きくはないけど、そうした施設もありますし、夏場だったら柏林公園もあるので、手間を出してくれるような役割を担ってくれるような人材をつくっていくのも必要かなと思います。

丹後委員

児童の健康管理、食べるということは大変に元になることで、私達委員の中で南十勝の中で女子会というものをつくりまして、具体的に学校給食を見せていただいて、更別、

中札内、大樹が最初だったんですけれど、大樹の学校給食がいかにもいいかということ、実際に食べて、つくるところもを見せていただいて、管理栄養士さんの話も聞かせていただいて、幼児教育の中にも含まれるんですけれども、健康管理が一番大事で、私がい言いたいのは食についてより吟味したらいいと思っています。南十勝でまだ見せていただいてないのが広尾町です。広尾町も見せてもらったらもっと煮詰まるような気がして。

鈴木さんともよく話しているんですが、大樹の場合白いご飯をいただくように指導をしているんです。というのは、本物の味を知ることなんです。食べることにしてもっと力を入れて、より吟味して、地場のものを、保健所だとかいろんな難しい問題があると思うんですけれど、健康管理イコール食べる、食事だと思うんです。具体的な方策はあまり思い浮かばないんですが、小学校の、鈴木さんどう思いましたか、大樹の給食はとておいしいと思えました。それをずっと続けていただきたいし、幼児の段階までももって行っていただけたらたいへんうれしいです。

町長

やはり、食は味覚もそうですけど、味覚は幼児のときに出来上がってしまうので、そのときにおいしいと感じたものは、大きくなろうと年寄りになろうとおいしいと感ずるので、そこができないと、食べ物に対して何の感動も持たないような舌になってしまうので、そこはとて大事だなと思います。昨日、東京で水産関係の大会があって、民間の水産団体の会長さんが仰っていたんだけど、学校給食でおいしい魚を食べさせてくれと熱弁していました。そういう子どもたちが魚好きの立派な健康な体をもった大人になるはずだから、ぜひここにいる町長さん方は地元に戻ったら給食でおいしい地元の魚を使った給食を出せと給食センターに言ってくださいと言われて帰ったのを思い出しました。

鈴木委員

うちの子が尾田保育所に通っているときは、いまもそうなんですが、山本先生のところで、まずトマトが自分でとって食べられるんですよ。いまは私の家の裏のところで、保護者が畑を起こして野菜を作って、たぶん定期的に子どもたちがとりにいって、それが給食に出ているはずなんです。そういうような味を知ることが非常に大切なので、できたら町の保育所にも本当はそういうところがあれば、もっと味覚はすごく発達しますし、おいしさもわかるんじゃないかなと思うのと。

後はお魚の話ですけれども、4年生になると漁組の方が来てつくってくださいますよね。ああいうようなことは非常に大切だなと思ってまして、もっと回数があると、1回限りではなくて、欠席したらそれでできないということではないような仕組みもあると嬉しいなとは思っています。

町長

小中高の連携の中で、大樹学、大樹を学んで大樹を知るという取組みがあるので、その中に食が含まれて当然だと僕も思ってます。いま、学校現場ではたとえば地引網をやったりとか、3年生は中島の酪農祭に行って酪農体験をしてバターをつくったりとか。中学校はいつだったか、シカの解体をしたんじゃないかな。

そういうこともやっているんで、年代年代に応じて必要な場面を体験させてあげるのは大切だなと思っていますので、ぜひそういう取組みを、幼児も入れてやっていかなければならないんですけど、小中高連携の動きの中で、大樹学の中でもそういう体験を数多くやってあげられればなと思っています。

ちょっと余談なんですけれど、緑提灯でご存じですか。居酒屋で地場産奨励の店っていう緑の提灯があるんです。星がついてて、5つついてるんです、白い星が。うちは1段階だって、自己申告だったかな、自分のところで使っている調理品の2割が北海道産だったら星1つだったかな。段階に分かれている。帯広にも、札幌でもたまに見ますね。給食センターに取り入れているところがある。地場産奨励の。それを掲げている給食センターがあるんです。うちもやったらと言ったんです。なかなか実現はしなかったんですが。そういうことを通じて地場のものを使っていく、子どもたちに食べさせていくという取組みをやってる給食センターも、どこだったかわかりませんが、あります。なので、本物を食べさせるってことも大切かもしれません。

丹後委員

食についてもう1点なんですけれど、個人的に月に1回健康についての講座を受けているんですけど、帯広で実際のお医者さんがボランティアでやっている講座に出ているんですけど、そういう健康づくり、たとえば幼児期における味覚の形成は何歳までにでき上がるとか、そういう一般の私達や子どもが学校に行っている父母の方たちとか、講座を受けたり、催し物を町で健康に、らいふあたりではいろいろやってるんですが、違う視点で食べることの重要性とか、いまの医学はどうなっているとか、そういう講座をやっていただいたら、お友達と誘い合って。そういう学ぶ機会をつくっていただきたいなと思っています。

町長

保健福祉課に栄養士が2人おりまして、健診のときとかを含め、食育又は栄養指導などいろいろやっていますので、いま仰られたような、角度を変えて、興味のあるような講座、研修会をつくっていくのも。

丹後委員

最先端の医療とか、それに伴ったの食とか、らいふの保健師さんたちの視点とちょっと違うような。個人的に保健師さんとお話することがあって、さすがにご存知なんで

すねこれからの医療とか。でも、それを実際の中では取り入れてくれてないんじゃないか。たとえば、ふまねっととか随分浸透してきていますけれども。そうじゃなくて、ちょっと視点を変えて知ることができたら、あらゆる階層の年齢のひとたちが、と思っています。

町長

他にご意見があれば、お出しいただきたいと思います。

教育長

いろんなお話を聞いてて医食同源という言葉思い出しました。薬を飲むよりは新鮮な野菜を食べて、体にいいものをとということがあるのかなということ、ファストフードに対してスローフードがすごく大事だなということ。また、子どもは大人の愛情を食べて大きくなる。ビタミン愛はすごく大事だ。手作りのものを母さんが一生懸命つくってくれたっていうのは大事。生活習慣でぐっすり寝るのが大事。中高生で不登校傾向の子は昼夜逆転していますから、ぐっすり寝るためにはたっぷり頭を使って体を使わないといけないうところの部分。

神山委員が言ってくれた叱れない親。最近、若い先生にもいます。叱れない教師。叱ったら子どもが離れていくのではないだろうか。やっぱり違いますよね。人間、間違い、失敗をしながら成長していくわけで、ただ、成功体験と失敗体験の割合はすごく大事みたいです。失敗ばかりすると自信なくしちゃって、ぐれちゃうということになりますので、そこをいかにいろんな場を提供しながら良さを引き出してあげるのが大事かなと思いました。短い時間でしたが、いろんな意見を聞いてありがとうございました。

町長

教育長にまとめていただいたので。他にご意見があればお出しいただければと思います。今回のテーマに関わらず、教育、行政全般に関わることでも結構です。

神山委員

先程から出ていますコミュニティ・スクールですが、何にしてもひとをつくっていかなければならないので、ひとをつくるためには幼児教育から、幼児の食から何からひくめる話になりますけど、そういうところにもう少しお金をつぎ込んでですね、人材の確保を。いいひとができれば、私がいいというわけではないんですけども、北海道のひとは一旦出るんですよ。出たい気持ちがある。出るんですけど、帰りたいという気持ちが大いいわけですから、いい人材をつくって出たとしても帰って来るんだよ、サクと同じで帰ってくるんだと思いつつ、ひとづくりをこれからもがんばって行ってもらいたいなと思います。

○町長

まさに地域をつくっていく、大樹町であれば、まちをつくっていくための重要なキーワードはひとでありますので、ひとをいかに育てていくか、ここに根付いていってもらえるかが、大樹町のまちづくりの根幹にあると思いますので、ぜひその点は意を注いでいきたいと思います。

他にご意見ないようでしたら、これで閉じさせていただいてもよろしいでしょうか。では、第2回目の大樹町総合教育会議をこれで閉じたいと思います。毎回毎回やるたびに有意義な忌憚のないご意見を頂いていること、活発なご議論を頂いていること、私も大変嬉しく、頼もしく思っております。年2回程度の開催であります。必要に応じていつでも開催するということではありますが、大きな案件もないということでもありまして、年度内は開催についてはいまのところ予定しておりません。また、緊急な課題等がありましたらお願いをする場面があると思います。

今年も残り1か月となりました。非常に寒い時期になってきたということでもあります。是非ご参会の皆様には健康にご留意されて今後もそれぞれのお立場で、教育、そしてまちづくり、いろいろな部分でご活躍をお願い申し上げて私からのお礼のご挨拶とさせていただきますと思います。それでは第2回目の総合教育会議をこれで閉じたいと思います。大変ありがとうございました。

午後4時10分 閉会

以上、会議の顛末を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成30年 / 月23日

委員 丹後 恵

委員 鈴木 珠世